

旧彦根港湾の外来水草 コカナダモ

県など 1.7倍 (昨年比) 132トン

専用船で除去作業



除去作業の専用船から大量に水揚げされるコカナダモ
(彦根市・旧彦根港湾)

した。今年は、秋にも除去作業を計画している。

彦根市尾末町の旧彦根港湾に外来の水草コカナダモが大量に生い茂り、県と市は三十日まで、専用船を使って、昨年の約一・七倍の百三十二トンを除去した。

コカナダモは北米原産で、琵琶湖では一九六〇年代半ばに、ほぼ全域に広がった。春先から成長して一―二層伸び、夏以降に茎の下部が切れて、「流れ藻」として水面を漂うこともある。

旧彦根港湾では五月から六月にかけて、南北約

ナダモを刈り取り、コンベヤーで船体内部に取り込んでいった。

市道路河川課によると、除去量は、二十トンを超える日もあり、作業がほぼ完了した二十九日までに計百三十二トンを達した。毎年六月に作業をしているが、昨年の七十六トンを大きく上回った。

除去したコカナダモは肥料として再利用するため、水揚げしてダンブカ―延べ百六十台で運び出

平成 18 年 7 月 1 日

京都新聞 (滋賀県版)